

スモモ(李)のカルテック施肥例 (10アール当り)

〈プラム, プルーン〉

時期	目的	資材と施用法
礼肥 (収穫後～ 8月上旬)	根の活力強化、 樹勢の回復、 秋の養分蓄積、 花芽の充実 (枝が充実し、開花直 後の落花が無くなる)	収穫直後に濃縮酵素液3～5リットルを薄めて灌水(300倍前後) または 500倍で葉面散布(葉が薄く傷んでいる場合) 8月上旬までに 礼肥として、下記2種を同時施用します。
		硫 安 20kg 畑のカルシウム 20kg (または カルテックCa粒状 20kg) ※N・Caの同時施用で 枝の徒長防止、蓄積と花器形成の促進。
元肥(冬肥) (落葉期、 11月)	1年分の基本と なる地力作り、 翌春の樹体の 基礎を作る栄養 の準備	ラクトバチルス 600グラム (通気性、保水・保肥性向上) 堆厩肥(牛糞など) 2トン (または 米ヌカ 150kg 以上) 硫 安 50kg ※堆厩肥・有機物が不十分な場合は 硫酸カリ20kg を追加します。 ※複合肥料を使う場合は チッソ成分 10kgとします。 畑のカルシウム 50kg (または カルテックCa粒状 50kg) ※カルシウム栄養を しっかり効かせて地力作りをします。 ※スモモは やや酸性に強く、pH:5.5～6.3が好適です。 土壌pHを測定して 調節して下さい。 ※上記4種を同時に施して、耕します(土と軽く混ぜる)。 施肥位置は 樹の近くだけでなく、園全体に広く全面散布します。
芽出し肥 (3月) 3月後半～ 4月に発芽、 開花	春、3月始めに は根が動きます ので、これを強 化、 (花と実、枝葉の 栄養を確保)	濃縮酵素液 3～5リットルを薄めて灌水(300倍前後)…根から樹勢 強化。 ※まず根を強く働かせて、開花・結果・肥大の力をつけます。 (2月後半～3月に 胚のう・花粉形成を強化しておく) もし元肥が不十分な場合は、下記の肥料も同時に施用します。 ただし開花前はチッソ過多にせず、チッソはカルシウムと併用します。 また土や樹がチッソ過多なら カルシウムのみを施します。 硫 安 20kg 畑のカルシウム 20kg (または カルテックCa粒状)
肥大期の 散布 (4～7月) 状態によって 適宜、調節し て下さい。	初期の肥大促進	開花・授粉15日以後(4月下旬)、 濃縮酵素液 500倍 葉面散布 ※受精果はこの後、前半の肥大ピークとなる。
	幼果の充実、 新梢・葉の充実 (枝葉を伸ばし過ぎ ない)	開花30日後頃(5月上旬)、 カルテックCa液状 500倍葉面散布 その後、5月～6月は、7日ないし14日間隔で Ca葉面散布が効果的。 ※新葉を厚くし、デンプン蓄積を進め、5月下旬の硬核期前後の落果 や、黒星病・果実腐敗(灰星)を減らします。 ※特に徒長やカルシウム不足の場合、また高品質を狙う場合は、 5月中下旬(収穫40日前頃、肥大休止期)に 畑のカルシウム 20～30kgを施用すると 非常に効果的です。
	根の強化、 果実の肥大促進	6月上旬、 濃縮酵素液 500倍 葉面散布 ※梅雨前に根の力を強化し、肥大の後半ピークにもって行きます。 <<カルテックCa液状とは 交互に散布します>>
収穫:6月 下旬～7月	成熟促進、 8月・花芽分化促進	収穫15日前頃(6月10日頃～)、 カルテックCa液状 500倍 葉面散布 (肥大ピークを過ぎて、7日間隔で2回散布が効果的)

※木の衰弱への対策…特にひどい場合は濃縮酵素液100倍で根を洗い(1本100リットル)、3日後、ラクトバチルス30グラムを米ヌカ7kgに混ぜて 散布し、覆土。その後、濃縮酵素液300倍を 7日間隔2回灌水(灌注)し、あとも根を伸ばす手当てを継続。

※品種:(日本スモモ) 大石早生スモモ、ホワイト・プラム、ソルダム。……一般にプラムと呼ぶ。
(ヨーロッパ・スモモ)スタンレイ。…一般にプルーン(乾果用)またはブループラム(生食用)と呼ぶ。
日本スモモより 20日ほど遅れる。